

# 群馬県衛生環境研究所年報

ANNUAL REPORT OF GUNMA PREFECTURAL INSTITUTE  
OF PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENTAL SCIENCES

NO. 49 2017

群馬県衛生環境研究所

# まえがき

群馬県衛生環境研究所は、河川や大気の調査・研究、食中毒や感染症の調査・研究を通して、地域の生活環境や県民の健康を守るため、日々活動しています。

2016年度も様々な問題が発生しました。ブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピックではジカ熱の大流行による小頭症の発生が問題となりました。

2016年10月の冷凍メンチカツによる腸管出血性大腸菌 O157(VT2)の広域食中毒事例の発生、2017年2月には東京の複数の小学校や和歌山県の小学校において、給食を食べた児童、教職員が症状を訴える大規模な広域食中毒事例が発生しました。この広域事例では、東京都健康安全研究センターが早期から感染研、厚労省、保健所等、関係機関と連携し、給食に使われた刻みのりからノロウイルスを検出し、感染源を明らかにしました。

2017年8月には埼玉県、群馬県のスーパーで総菜を購入して食べた人の腸管出血性大腸菌 O157(VT2)による広域食中毒事例が発生しました。同じ遺伝子型を持つ O157 が他地域でも数多く検出されましたが、今の所、原因は明らかになっておりません。原因究明や被害の拡大を防ぐためには、こうした広域事例における早期探知、保健所による疫学調査、地衛研による迅速な診断等、地域を越えた諸機関との情報共有が大事です。

2016年4月から感染症対策の強化が打ち出され、病原体サーベイランスの強化、精度管理への対応が追加され、地衛研の役割が益々重要になってきています。麻疹の海外からの持ち込み事案への対応、結核対策も課題です。群馬県では、2016年1月より感染症発生動向調査における結核の VNTR 解析を導入し、結核菌の分子疫学的手法を用いた解析を実施する体制を整えました。

2020年の東京オリンピック開催を控え、海外との交流が盛んになり、新興・再興感染症の対策、薬剤耐性菌対策が重要になります。

県内の保健所、医師会、医療機関、また各地の地方衛生環境研究所、国立感染症研究所、国立環境研究所をはじめ、関係各機関と連携しながら、頼りにされる研究所を目指して職員一同努力して行きますので、皆様方のご支援を賜りますようお願いいたします。

2017年9月

群馬県衛生環境研究所長 猿木信裕

# 目 次

## まえがき

### I 機 構

1 沿 革	1
2 組織と業務内容（平成 29 年 4 月 1 日）	3
3 職員一覧（平成 29 年 4 月 1 日）	4
4 決算（平成 28 年度歳出目・節別調書）	5
5 主要備品一覧	6
6 学会・研究会及び会議への出席	7

### II 業務実績

1 水環境・温泉研究センター	11
2 感染制御センター	14
3 研究企画係	16
4 保健科学係	18

### III 調査研究

#### 報文

1 県内河川への農薬流出実態の把握 中曽根佑一、梅澤真一	21
2 魚へい死事案の原因究明を目的とした河川底質調査に関する初期検討 中曽根佑一	28
3 群馬県における粒子状物質質量濃度測定結果と測定値の品質管理（2） 田子博、梅田真希、熊谷貴美代	34
4 平成 21～28 年度赤城山における酸性霧測定結果 梅田真希、田子博、齊藤由倫、熊谷貴美代	40

### IV 資 料

1 尾瀬沼水質調査およびコカナダモ生育状況観察結果 梅澤真一、木村真也、中曽根佑一、町田仁	47
2 群馬県における無機ガス調査 2016 田子博、梅田真希、齊藤由倫、熊谷貴美代	51
3 群馬県における大気中 PM <sub>2.5</sub> 成分調査結果（2016 年度） 熊谷貴美代、梅田真希、齊藤由倫、田子博	55
4 平成 28 年度群馬県感染症流行予測調査結果 中野剛志、後藤考市、河合優子、塩野雅孝	59
5 平成 28 年度に感染症発生動向調査から検出されたウイルス 齋藤麻理子、高橋裕、塚越博之、黒澤肇	63

### V 発表業績

1 学会誌等への投稿	67
2 学会等での発表	68

### VI 研修・業績発表会

1 当所で実施した研修	71
2 当所で受け入れた視察、研修	72
3 業績発表会	73